

ACM CHI 2021 協賛のお願い

代表者名： 北村 喜文 (ACM CHI 2021 General Chair) (東北大学 教授)
連絡先： 東北大学 電気通信研究所
〒980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1

国際会議 ACM CHI 2021 について貴学会からの協賛を賜りたく、下の通りお願いいたします。なお、協賛にあたり、貴学会には財政・労務的負担は一切おかけいたしません。

国際会議名称

ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems 2021

人と情報システムの相互作用に関する国際会議

開催期間 2021年(令和3年)5月8日(土曜日)～5月13日(木曜日) 6日間

実施場所 パシフィコ横浜 North 他

詳細情報掲載 URL <http://chi2021.acm.org/>

会議の特徴・経緯

CHIと呼ばれる本国際会議は、ACM (Association for Computing Machinery)の1つの分科会(SIG; Special Interest Group)であるSIGCHI (SIG Computer-Human Interaction)が主催してフラッグシップとして開催する国際会議で、コンピュータをはじめとする情報システムと人との関わりについて、情報科学、認知科学、心理学、デザイン学等、多岐に渡る分野の研究者や技術者、学生等が世界中から集まり議論する学際的な場です。この分野で最大かつ最も権威がある国際会議として、1982年から毎年4～5月に北米またはヨーロッパで開催されてきました。最近参加者が増える傾向にあり、37回目の開催となったCHI 2019は英国のGlasgowで開催され、これまでで最大の参加者数3855人を集めました。39回目となるCHI 2021は初めての日本開催となります。そこでは、世界中50か国から4000人以上の参加者の参加者を見込み、これまでで最大のCHIになると予想されています。

主な内容

本会議の権威は、厳しい査読(2019年は2960件の投稿から703件の採択)を経て採択された論文の口頭発表が行われるPapersのプログラムで示されます。その他に、最新の研究成果をよりインタラクティブに発表できるPosterや、情報システムとの触れ合い体験を重視するDemonstration、ある特定のテーマに関する議論を深めるWorkshopなど、多彩で高品質なプログラムが毎年盛沢山です。本会議で議論する内容は、情報技術に囲まれた高度情報社会に生きる人々のクオリティオブライフを保証していく上で、今後、非常に重要な役割を果たすと考えられています。

CHI 2021 開催概要

会議名称	ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems 2021 人と情報システムの相互作用に関する国際会議
略称	CHI (カイ) 2021
会期	2021年5月8日(土)～13日(木)
会場	パシフィコ横浜 North 他
主催	Association of Computing Machinery (略称: ACM)
参加予定者数	国外3,000人 国内1,000人 計4,000人以上 [50カ国・地域]
Webpage	http://chi2021.acm.org/
テーマ	Making Waves, Combining Strengths
General Chairs	北村 喜文 / Yoshifumi Kitamura (東北大学 教授) アーロン・クイグリ / Aaron Quigley (University of St Andrews, Scotland 教授)
Technical Program Chairs	五十嵐 健夫 / Takeo Igarashi (東京大学 教授) キャサリン・イサビスタ / Katherine Isbister (University of California, Santa Cruz 教授)
Papers Chairs	パネラ・ビョーン / Pernille Bjørn (University of Copenhagen, Denmark 教授) スティーブン・ドラッカー / Steven Drucker (Microsoft Research, Principle Researcher)

最近の CHI の概要

回		開催日	開催地	参加者数	Papers 採択率
29	CHI 2011	May 7-12	Vancouver, Canada	2,861	410/1532 = 27%
30	CHI 2012	May 5-10	Austin, TX, USA	2,616	370/1577 = 23%
31	CHI 2013	April 27-May 2	Paris, France	3,443	392/1963 = 20%
32	CHI 2014	April 26-May 1	Toronto, Canada	3,001	465/2043 = 23%
33	CHI 2015	April 18-24	Seoul, Korea	2,896	379/1520 = 25%
34	CHI 2016	May 07-12	San Jose, CA, USA	3,624	565/2435 = 23%
35	CHI 2017	May 06-11	Denver, CO, USA	2,939	600/2400 = 25%
36	CHI 2018	April 21-26	Montreal, Canada	3,347	666/2592 = 25.7%
37	CHI 2019	May 4-9	Glasgow, UK	3,885	703/2960 = 23.8%
38	CHI 2020	April 25-30	Honolulu, Hawaii		
39	CHI 2021	May 8-13	Yokohama, Japan		

後援・協賛・協力等をいただく団体名（予定を含む）

経済産業省，総務省，文部科学省，独立行政法人情報通信研究機構(NICT)，一般社団法人 電子情報通信学会，一般社団法人 情報処理学会，一般社団法人 日本ロボット学会，特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会，特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会，一般社団法人 日本ソフトウェア科学会，一般社団法人 映像情報メディア学会，特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構，一般社団法人 日本人間工学会，公益社団法人 日本心理学会，一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会，公益財団法人 画像情報教育振興協会，他

協賛をお願いする理由・協賛内容

本国際会議 CHI 2021 のさまざまなプログラムに対する投稿数は毎年増えており，それに応じて，厳正な査読によって選ばれ，発表される研究成果の数も順調に増えてきております．こうした数多くの優れた研究成果を広く世界へ知らせるにより，関係する全ての研究分野の学術的発展と産業の育成に繋がる活動となることを強く望み活動しております．そのため，会議の質を向上させると同時に，規模も大きくして開催することが必要となります．そして皆様のご協力を得て，あらゆる面で歴史に残る Best CHI ever にしたいと考えています．

トップコンファレンスとして位置づけられる本会議で研究成果を発表し，世界中から集まる有力な研究者と議論できる機会は，若手研究者のキャリアパスを考える上で非常に重要です．更に，多くの意欲ある優秀な若者にこうした分野に興味を持ってもらうため，また人材育成の観点からも，多くの学生に Student Volunteer という形で参加してもらい，運営に携わってもらっておりますが，これは，特に日本にとっては，広い視野とバランス感覚を持って国際舞台で将来活躍することができる人材を育成する場としても考えることができ，国際競争力を未来に渡って維持するという意味からも，日本の国益にかなった制度だと思います．

そこで，貴学会会員の皆様の貴重な研究成果を世界に向けて発信していただく絶好の機会と捉えていただくとともに，優秀な若者に国際的なセンスを養う場としてご紹介いただきたく，会員の皆様にご案内等いただけましたら幸いです．また，世界中からこの分野の研究者が多数集まりますので，貴学会でも，うまく相乗効果を生むような関連イベントを，時期と場所を調整して企画・開催していただければ，我々としても大変光栄に存じます．

ご参考

人と情報システムの相互作用を考えるコンピュータ・ヒューマン・インタラクションに関する分野の国際会議は多数ありますが，その中で，本会議 CHI は最も権威があるトップコンファレンスとして広く認知されています．例えば，次のようなサイトで第 1 位として掲載されています．（2019 年 8 月時点）

[1] <https://academic.microsoft.com/conferences/41008148,107457646>

[2] https://scholar.google.co.jp/citations?view_op=top_venues&hl=ja&vq=eng_humancomputerinteraction